



子ども大学学生新聞

第44号
子ども大学
かわごえ新聞部

音楽と音はどっちがどっちのか

外山和彦先生「消えてなくなるものが宝物」

二月一七日(土)午後一時四五分から尚

美学園大学教室棟北オーデイトリ
アムで、尚美学園大学非常勤講師
の外山和彦先生による「音楽と音
の違いとは？」という授業があり
ました。

最初にC→G7→Cのコードでピアノ
を弾かれました。それに合わせて学生全
員が起立、礼、直って気を付けの姿勢を
取るという一連の動作をしました。
そして、先生は英語であいさつをされ
ました。

そのあと、先生は日本語で話し始めま
した。さきほど先生は「礼をしなさい」



「気を付けをしなさい」と号令をかけな
いの、学生全員がCのコードを聞くこ
起立し、G7のコードを聞いて礼をする
のはなぜか、ということから授業の内容
に入っていきます。

先生はテレビ番組「ぶらり途中下車の
旅」の音楽や「サッカーワールドカップ
2002」の音楽監督をされています。
いわばプロの音楽家の指導で、学生たち
は「ハローソング」という即興曲を歌い
ました。とても簡単な曲で、「ハロー」
という四つの音程を歌うだけです。でも
声を聞き分けながら歌うのは、すごく難
しいことだそうです。

音楽をやるということは、自分に聞こ
えるように音を出したり、声を出したり
すること、一度聞いた音を覚えること
はすごく高度なことなので、作曲
家はドレミファの音を頭の中でイメー
ジし、心の中に聞こえてきた音をピアノな
どで確認しながら楽譜に書き起こしてい
くのです。

ここで先生から「音楽と言葉の違いは
何か」という質問が投げかけられました。

そもそも普通の言葉を音楽にするのは中
途半端な音程のために人間の耳で行うこ
とは困難です。さきほど先生が英語であ
いさつされたとき、意味が分からない人
がたくさんいました。しかし「ハローソ
ング」になると、初めて聞いた音楽なの
に誰にも分かりました。それは、音があ
ると、人間は自然に音を拾おうとする性
質があるからです。先生が授業中に「は
くしゅをしてください」と言いました。
そうすると学生たちは何の疑いもなく手
をたたきました。「は」「く」「しゅ」と
いう言葉を聞いただけで学生たちは「拍
手」という音をイメージし、手をたたいた
のです。

つぎに、「こういう話をされました。『小
学生のうちから勉強しなさい』。私がこ
の言葉をどんな気持ちで書いたかは、書
いた自分にしか分かりません。みなさん
はどのようにとらえましたか？ 怒って
いるようにとらえた人もいます。よう
やさしく語りかけていると受けとめた人
もいると思います。言葉というのは、実
際に聞かなければ分かりません。大人に
なって生活していくうえで、文字から相
手の感情を読み取らなければなりません
。

そして、音楽と言葉の共通点について
先生は「目立つ音を選び出すこと」と言
いました。五〇音も音階も特別に目立つ
ている音なので、人間は聞き分けて意味
を理解することができます。

続いて、ピアノが八八鍵ある理由を説
明してくださいました。簡単に説明する
と、「ミ」の音を基準の音Aとします。

そのAから白黒鍵盤を含めて八つずつ数
えていきます。そうすると八八番目に来

る音が、ちょうどAになることから、鍵
盤が八八あるのだそうです。

また、音は空気を振動させて発せられ
ます。ト音記号上の楽譜の中に入る「ド」
を基準としたとき、二度下のAを440
OHとする、オクターブが下がると
半分の周波数、オクターブが上がると
倍の周波数のになります。(長坂星名シ
ニア記者 大宮開成高校1年)

「名前を歌にしよう」

二時間目は「名前を歌にしてみよう」
でした。先生は、手をあげた人の中から
何人か選んで名前を聞き、名前をリズム
や音を変えて歌にしてくれました。そし
て、「元の形や意味が無くなっても、そ
の時に創った音やリズム、歌には、創っ
た時の想いが込められている。それが作
曲なんだ」と話してくれました。

最後に私たちに「消えて無くなつてし
まうものは宝物。でももしかしたら、い
つか思い出すことが出来るかも知れない
もしいい出せたら、それは、本当の宝物
なんだよ」と伝えて授業は終わりました。
(上杉 環記者 高階小6年)

☆外山先生にインタビュー

Q 音楽に興味を持ったのはいつごろか
らですか。

A 小学一年生のときです。

Q 今まで作った音楽の中で一番心に
残っている音楽は何ですか。

A 東日本大震災のときに復興支援のた
めに仲間と作った「ヤダ」という曲
です。

(新井悠希記者 大東西小5年)
Q コマーシャルを作るとき、どんなこ
とに気をつけますか。

☆記者の授業感想

A その商品が売れるようにすることで。何度もスポンサーと打ち合わせをして、それにそって曲を作ります。作曲家になつたきつかけは何ですか。

Q 自分が作った曲を聞きたいし、広めたい人がいるからです。

(吉田真奈記者 坂戸市勝呂小5年)

Q ゲームの曲はどうやって作っていますか。

A ゲームの映像を見ながら作っています。ゲームの曲は楽しむために作っているの、怖いシーンは怖い曲、迫力のあるシーンでは迫力のある曲と場面に合わせて曲を作っています。(田本 周記者 武蔵野小6年)

◇田本 周記者 武蔵野小6年

ぼくはこの授業を受けるまで、音と音楽の違いがわかりませんでした。けれど授業が終わって、音は英語や日本語のように意味のある言葉の場合、伝わらない人がいることがあるけれど、音楽はみんなに伝わる、それが音と音楽の違いだと思います。

また、音は空気を振動させている、周波数では音の世界でも算数が関係している、音を数字で表すことができるなど、音の世界は自分が思っていたよりも奥が深かったことを思い知らされました。

◇河原美佐子記者 中央小4年

わたしは、先生の話を聞いて、音はおもしろいと思いました。先生は、しんどろが音になると、高さのちがう同じ音があることを教えてくださいました。

先生はさいごに、きえてなくなるものが宝物。でも、もし思い出すことができたら、それが本当の宝物だと教えてくださいました。

◇秋山花那記者 鶴ヶ島二小6年

私は、この授業で、一番驚いたことがあります。それは先生が一度もピアノを教わったことがないということです。じゃあ、どうやって曲作りをしているのかというと、音を耳で感じ取って作っているということです。みんな、すごく驚いていました。それは、文字だと伝わらないということです。



す。「文字だと『早く帰ってきなさい』と書いても、怒っているのか、普通に言っているのか分からないかもしれません」というところ

感情を持つ人間は素晴らしい

◇堀 颯斗記者 高階西小6年

先生の授業を受けて、音楽に今より興味がわきました。なぜ音楽に興味を持ったかという、音は空気が響いて出ていることです。

そして、音を出すのは声も同じだと思いましたが、声には低い高いや、長い短い、弱い強いなど、いろいろな出し方があります。人間はその声の特ちょうを生か

て感情を表現します。コンピューターなら相手がどのような感情か、わからないでしょう。感情を持つ人間は、とてもすばらしいと思いました。

先生は最後に、ぼくの作ったリズムで、ぼくの名前の歌を即興でピアノ演奏をしてくださいました。とても嬉しくて記念になりました。

◇奈村晴冬記者 高階小6年

ぼくは、この授業で、ピアノに少し興味をもちました。理由は、家に帰って電子ピアノを見ていて、今までは音を聞いて、だいたいの音階の位置が分かったのが、その日は見ただけで分かりました。これからは、自分で少しでもピアノを弾ける曲を増やしたいです。

◇杉山絢音記者 高階西小4年

外山先生の授業で、はじめにみんなで歌った「ハローソング」という曲がおもしろく、楽しかったです。今日の授業はむずかしくて、あまり分からなかったですが、先生の言葉で、「消えてなくなる物が宝物。でも思い出せるかもしれない、もし思い出すことができたなら、それは本物の宝物」とおっしゃったことが心に残りました。

◇堀 綾花記者 高階西小4年



先生は、ピアノを使っても声を発しても、心の思いを伝えるように感じるからです。また、音を短く切ったり、長くのばしたりする曲や歌があれば、それらを組み合わせて、その時の自分の感情を伝えようとする曲や歌もあります。曲や歌を聞いただけで、その曲や歌を作った人の、曲や歌に込め

た願いや気持ちを感じ取ることができると、音楽は、とてもおもしろいと思いました。

◇小畑美宙記者 高階西小6年

私が印象に残ったことは二つあります。一つ目は、ピアノの周波数です。七〇年前に「三」が四四〇と決まりました。「ラ」から一オクターブ上がると八八〇で、一オクターブ下がると二二〇でした。上がるときは×2、下がるときは÷2で、算数みたいでおもしろかったです。

二つ目は、グラブドピアノの黒いけんばんと白いけんばんをすべて数えると八八あることです。今まで一回も数えたことがなかったので、知ることができてよかったです。

音を決めるのに算数も使う

◇藤山七海記者 霞ヶ関南小6年

外山先生の授業を聞いてP5が印象に残りました。聞きなれない言葉だったので、算数を使うことがあるのも印象に残りました。私は音楽が好きだけど、算数はあまり好きではないからです。むずかしかったけれど、とても勉強になりました。

◇新井悠希記者 大東西小5年

授業を受けて印象に残ったことは、先生の「消えてなくなるものが宝物」という言葉です。今まで音楽というものを、そのように考えたことがなかったので、衝撃を受けました。

◇吉田真奈記者 坂戸市勝呂小5年

私はピアノを習っていますが、けんばんが八八ある理由を知りませんでした。八八のけんばんは、P5がすべてそろそろようになっているのです。ピアノのけんばんの数にも、ちゃんとした理由があることを知り、びっくりしました。